

酷暑の雪

深刻な^{かお}表情をした^{まち}都市に

あっけらかんとした雪が舞い落ちてゆく

この暑熱の大気の中で、どうして
地上に落ちるまで融けることがないのか

数字が1ずつ増してゆく
それを目で追うという生活

悲劇ではなく
数学的な帰結として起きる事件の数々

あちらこちらから吹き出る熱風が
狭苦しいビルの谷間によどんでゆく

その中に舞い落ちる
紙ふぶきのような軽い白い雪

50年
たった50年

その間に産み出された化合物
それは未だ崩壊を知らない

この雪は融解しているのではない
エネルギーへと変化しているのである

地上に下りたその時に微細な粉体と化し
あらゆるものに蒸着しているのである

(私たちはその上を歩いている)

(2007.7.31)